



心も体も元気なふなぼりーと

令和8年 7月号 園だより

江戸川区立船堀幼稚園

—教育目標—
元気な子ども
明るい子ども
考える子ども
思いやりのある子ども

園長 東 美和

～カブトムシをさわってみたよ～

先日の幼稚園公開では、保護者や地域の皆様に子どもたちが好きな遊びに取り組んだり、学級全体で活動したりしている姿を参観していただきました。その中で未就園児の保護者の方から「子どもたちみんな、のびのび楽しく過ごしている様子が見られて、とても素敵な幼稚園でした」「来年から通園するのが楽しみです」といった感想をいただきました。子どもたちが園で楽しく過ごしている様子がいろいろな方に伝わり、とても嬉しく思っております。

公開の時に気付かれた方もいらっしゃると思いますが、園内にはさまざまな生き物がいます。カメや金魚といった生き物だけではなく、カブトムシの幼虫やヤゴなど、この時期にしか見られない生き物も飼育しています。カブトムシやトンボの“成虫”は、絵本や図鑑、スマホの情報などで知っている子はいるでしょう。しかし“幼虫”がどんな姿で、どんな場所に住んでいるのかを実際に見ることはほとんどありません。飼育ケースの前で、土の中にいるカブトムシの幼虫がさなぎになったり、ヤゴが水の中を泳いだりする様子を、毎日興味深く見ている子がたくさんいました。

6月後半になり、生き物たちが羽化し始めました。ばら組の子どもたちは、土から出てきたカブトムシを見て、さわってみたいけれどちょっと怖い…。それでも指先でちょっとだけ角や背中にふれ、「さわれた!」と喜んでいました。星の組の子どもたちは去年の経験もあり、「角が短いからこれはメス!」「カブトムシのゼリー(エサ)をあげなきゃ」と世話をしていました。ヤゴは水槽から出て羽化に成功し、トンボになりました。そのトンボは、子どもたちと一緒に空に放ちました。トンボが空高く飛んでいくと、「わあー!」と子どもたちから歓声があがりました。

今後も生き物との直接的な関わりを通して、自然の不思議さや命の尊さに気付き、子どもたちの感性を育てていきたいと思っております。



ヤゴはどこにいるのかな?



フラミンゴにエサをあげよう



ふなぼりなつまつり どのおめんにする?



星の組 ロープ渡りにチャレンジ